

I S H C C 基調講演 (2019 年秋季大会、熱海)

Keynote Speech (ISHCC 2019 Autumn Convention, Atami)

宗片 邦義

MUNAKATA Kuniyoshi

Abstract ISHCC was founded in 2000 by Nihon University graduate students and professors aiming to contribute to the peace of the world not by comparison but in pursuit of harmonization of all cultures of the world. It also entertained a motto “the rule of three Ks”: in order to really succeed in this life, your *kokoro* (mind), *kotoba* (speech) and *kohdoh* (conduct) must be in agreement with each other. ISHCC will celebrate its 20th anniversary in 2020.

Keywords: ISHCC, harmonization, the rule of 3Ks. 国際融合文化学会、調和、3 K の法則。

今日は 11 月 16 日ですね。4 日前が私の誕生日でした。85 歳になりました。(すかさず会場から「私は 87 歳よ」という女性の声。隣から「私もよ」と。さらに「88 歳米寿^{べいじゅ}」という男性の声も)。実は今から 20 年前、1999 年 4 月、私が 64 歳の時に、「日本最初の通信制大学院」として日本大学通信制大学院が発足^{はつそく}しました。その一期生たちによって、この「国際融合文化学会」は結成されたのでした。そのときの経緯^{けいゐ}を知っている一期生の方は、今日はおひとり、大阪の木佐貫洋^{きさぬきひろし}さんだけのようですね。その結成時の事情をお話したいと思います。

一期生入学の翌年、2000 年の 3 月、沼津の KKR ホテル「はまゆう」で文化情報専攻学生(平均年齢 40 何歳か)が 30 名ほど集まって、第 1 回の合宿ゼミを行った。学生の一人、竹内正人^{たけうちまさひと}氏の『北日本新聞』懸賞小説入選祝いを兼ねた集いでした。(彼今年、2019 年は、『日経新聞』の星新一賞を獲得しました。小説題名は *KANIKAMA*。おめでとう。素晴らしいですね。)

さて、夕食の後、全員近況報告を行いました。当時は比較文学・比較文化研究が盛んでしたが、比較は優劣を伴うことが多いので、比較ではなく、すべてを尊重し、その調和と融合をはかる。そういう学会を創ろうではないか、という声が上がリ、その場で結成が決まったのでした。そして翌日、近くの旧沼津御用邸^{ぬまづぎょううてい}の奥座敷で、会則が大筋出来上がったのです。パソコン携帯の棚田茂^{たなだしげる}氏^しがその場で会則を入力してくれたのが、まだ当時としては新鮮でした。まさに一騎当千^{いっきとうせん}の兵^{つわもの}の集まりでしたね。

学会名(案)は、「調和と融合文化学会」だったと思います。その後、大学総長の瀬在幸安^{せざいゆきやす}先生に名誉会長就任をお願いに伺ったときに、「国際」を冠することを提案されて、結局今の「国際融合文化学会」となったと記憶します。

これがこの学会設立の経緯ですが、その時に私の提案で、「3 K の法則」が学会の「モットー」

の一つとして、採用されたのでした。3Kとは、心・言葉・行動のことで、この3つが合致すること。この3つが合致しないと、最終的に本当に素晴らしい人生を全うすることができないだろうというものです。言葉と心と行動がちぐはぐにならないこと。

シェイクスピアの悲劇『ハムレット』の中に、王クローディアスの祈りの場面がありますね。先王すなわち兄王を毒殺して、その妻・王妃をわが妻にした。その悪事はそのままして、形だけ祈っても、それは天に通じない、と自ら認める場面です。形だけの祈りは天に通じない。言葉は舞い上がるのみ。“Words fly up.”と自ら認める場面です。

「言霊」(ことだま)と言いますね。言葉が単なる言葉ではなくて、言葉に霊的なもの、もしくははなにか不思議な力が備わっている。乱暴な言葉は波動が荒くどす黒く、美しい言葉は波動が細かく美しく白い。白は当然黒に負けてしまいます。

夏目漱石が英国に留学した時、ロンドン大学の W. P. ケア教授に教わりました。このケア教授は、ブライズ先生の英文学の教授でした。言葉を知ることなしに、その民族の文学や心を知ることにはできない。その音が、響きが、リズムがいかにか大事か。そのことを、ブライズ先生はケア教授から教わったと書いています。上皇様は皇太子だったころ、約 20 年間このブライズ先生から英語を教わられました。

先週から新しい陛下即位の大嘗祭で、陛下が国民の幸せや世界の平和をお祈りしておられる。古い日本語で祈りの言葉を述べておられるという。その言葉にはお心がこもっておられるはずで、心と言葉が合致しており、そしてそれが行為に表される、というわけでしょう。

私たちは醜い言霊で地球を汚す、世界をかき乱すことは、やめようではありませんか。我々はそのような醜い言葉に惑わされず、そういう現代社会に惑わされず、理想を、真善美を追求しようではありませんか。これは私がシェイクスピアに興味を抱き続けてきた理由、そして結論の一つでもあります。最近の自然現象・気候変動などは、人為的・人工的なものと言われる。人間が自然を、地球を破壊し続けている。空も海も大地・土壌も単なる物質ではなくて、すべて生きている、地球は生きている、それで龍神が怒っている。

今とても面白い本を読んでいます。『「愛と微生物」のすべて』(比嘉照夫ほか著、ヒカルランド)という本です。「地球(宇宙)は微生物の海であり、人体の 90%は微生物」というのです。そして、「微生物は人間の心を 100%見抜く」というのです。この本には「新量子力学入門」というサブタイトルがついている。「地球蘇生プロジェクト」とあり、「放射線もみるみる消えていく」と。

すべては、大自然、宇宙のすべては、創造主が創ったすべては生きている。我々はその中で生きている。真善美を尊び、互いに敬愛し、助け合う、平和な世界の実現に、ささやかなりとも、貢献しようではありませんか。そうして人生を、全うしようではありませんか。

来年は学会結成 20 周年ということで、今日は結成当時のことをお話しさせていただきました。有難うございます。(2019.11.16)